



涌小通信

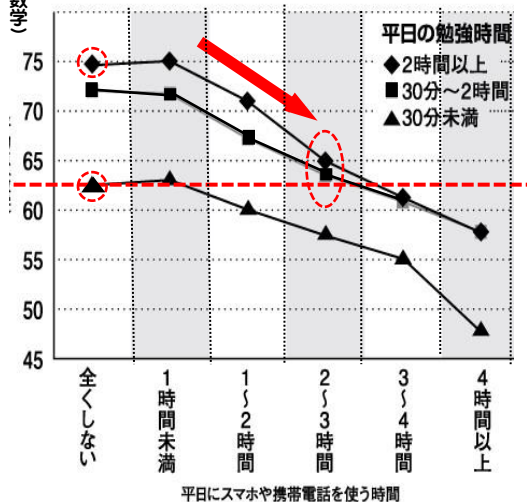
知内町立涌元小学校
～重点教育目標～
主体的・協働的に学び、
認め・磨き・高め合う子
平成29年11月30日発行

2時間勉強しても、勉強内容が消える!!

～脳科学から見る、スマホ・メディア社会の影響～

校長 三上 幸喜

スマホや携帯電話を使う 時間ごとに見た数学の平均点



このグラフは、東北大学加齢医学研究所長 川島 隆太教授の講演会で示されたグラフです。このグラフの基になっているのは、仙台市の中学生7,000人を7年間の渡って追跡調査した結果とのことでした。このグラフから、どのようなことを読み取ることができるのでしょうか。

脳科学的な原因については十分に解明されていないとのことでしたが、統計学的には「毎日2時間以上勉強した生徒(◆)でも、2時間以上スマホや携帯電話を使用すると、学習時間が30分未満の生徒(▲)の点数と差が見られなくなる。」との考察でした。つまり、スマホや携帯電話を長時間使用すると、学習内容が消える。(残らない)という驚きの結論に至ったそうです。

川島 雄太 教授・談 (任天堂DSの脳トレを監修)

「スマホを使いすぎると子供の脳にどのような影響があるのか。私はこの研究にあまり時間をかけてはいられないと考えています。いま、電車の中では大人もみなスマホをいじっています。窓の外で桜が咲いていることにも気づいていないのでは、と思うほど画面しか見ていません。最近では、授乳中の赤ちゃんとも目も合わせずにスマホをいじる母親も増えています。赤ちゃんは母親と目を合わせることで感情表現を学ぶと言われており、成長期に母親と目を合わせずに育ててしまえば、発達にも影響があると危惧されている。大人のこうした様子を見て子供もどんどんスマホ依存に陥っていくのです。

今回の結果は、スマホの長時間利用の規制を真剣に考える時期にきていることを示唆しているのではないのでしょうか」
平成29年度校長会宗谷・稚内大会記念講演より

さらに7年間の追跡調査から以下のことが分かってきたとのことでした。

- スマホを1日1時間以上、使い続けた子どもはどんどん成績が下がった。
- もともと成績が良かった子ども、スマホを使い始めると成績が大きく下がった。
- スマホをもともと1時間以上使用していて成績が悪かった子が、スマホ使用をやめる、もしくは1時間未満に抑えたら成績が向上した。(時間の管理ができると、スマホの誘惑にも負けなくなる)



ぐずっている赤ちゃんにYouTube動画を見せて子どもをあやしたり、麻薬依存症と同じように、スマホへの強い依存症状を示す子どもが、医療現場(小児科医)から数多く報告されるようになってきているそうです。

子ども自身に気付かせるとともに、大人の責任として、メディアの接し方を大人が管理していかなければならないと危機感を抱きました。